

2015.03.01

在宅医療先進地域情報フェスタ2014

日本ガイシフォーラム レセプションホール

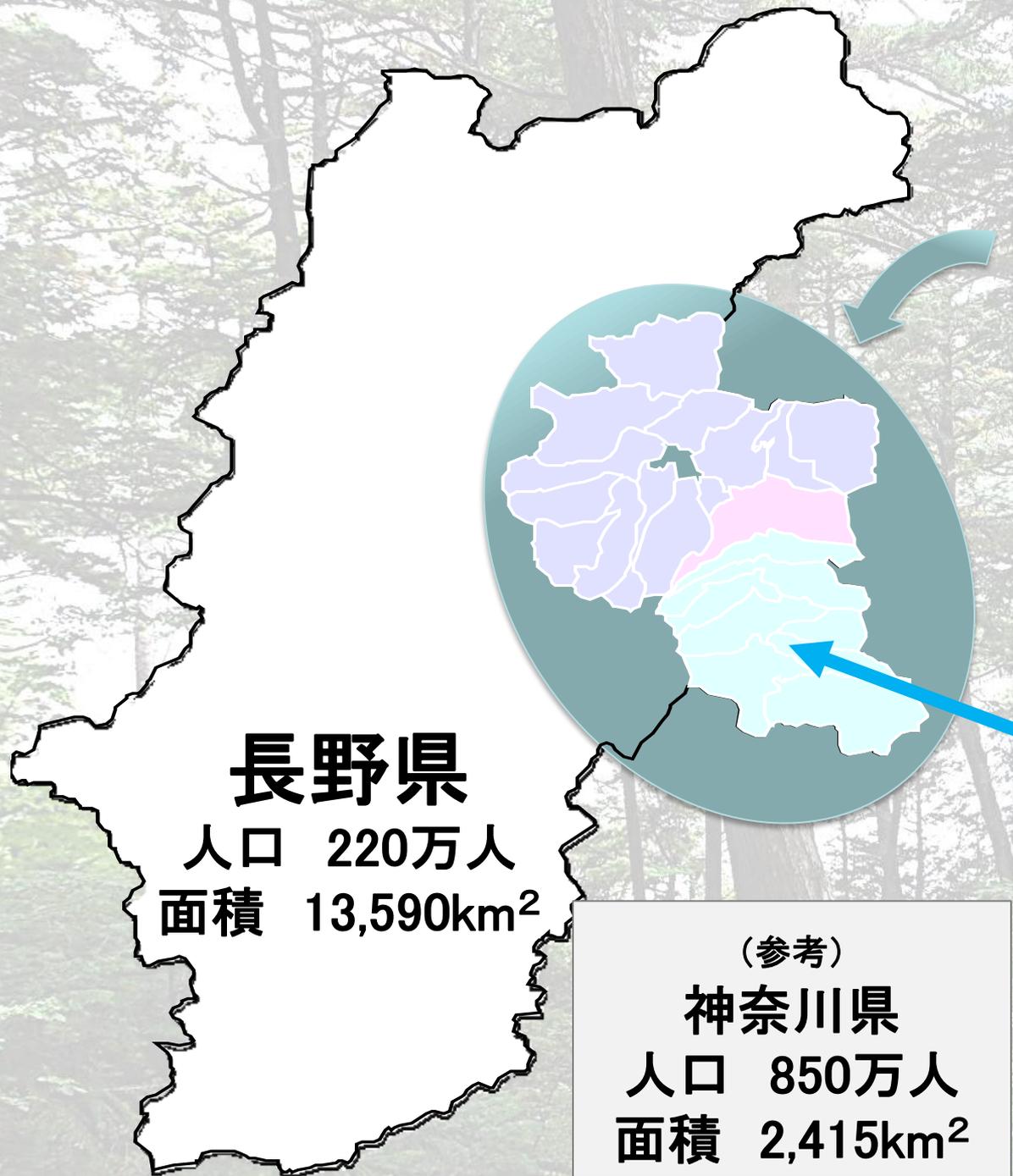
長野県南佐久郡中山間地域での在宅医療 ～里山がつくる看取りの文化～

小海町役場町民課保健係

篠原 直也

佐久総合病院附属小海診療所

北澤 彰浩



東信地区 (三次医療圏)

人口 42万人²
面積 2,477km²

佐久地域 (二次医療圏)

人口 21万人²
面積 1,572km²

(参考)

神奈川県

人口 850万人
面積 2,415km²

在宅医療連携拠点事業

南佐久南部5ヶ町村の取り組み



事業主体

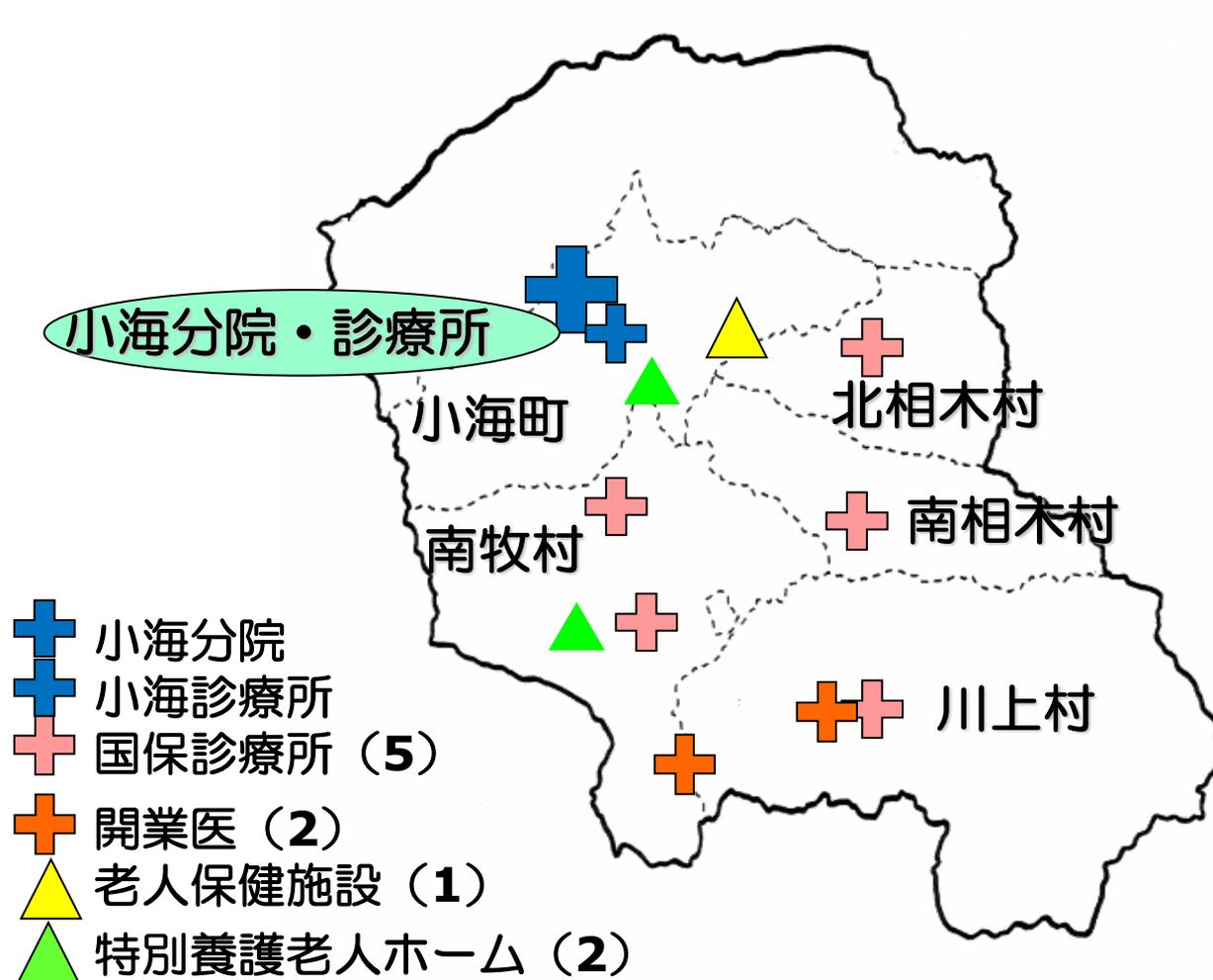
小海町 川上村 南牧村

南相木村 北相木村

事業委託先

佐久総合病院付属小海診療所

高齢化率・医療機関・介護施設



	人口	高齢化率
長野県	212万	28.3
小海	4,937	36.5
北相木	837	37.9
南相木	1,065	38.3
南牧	3,477	26.9
川上	4,756	24.6
南部5町村	15,072	30.7

(平成25年10月)

小海町から



小海町 プティリツツア

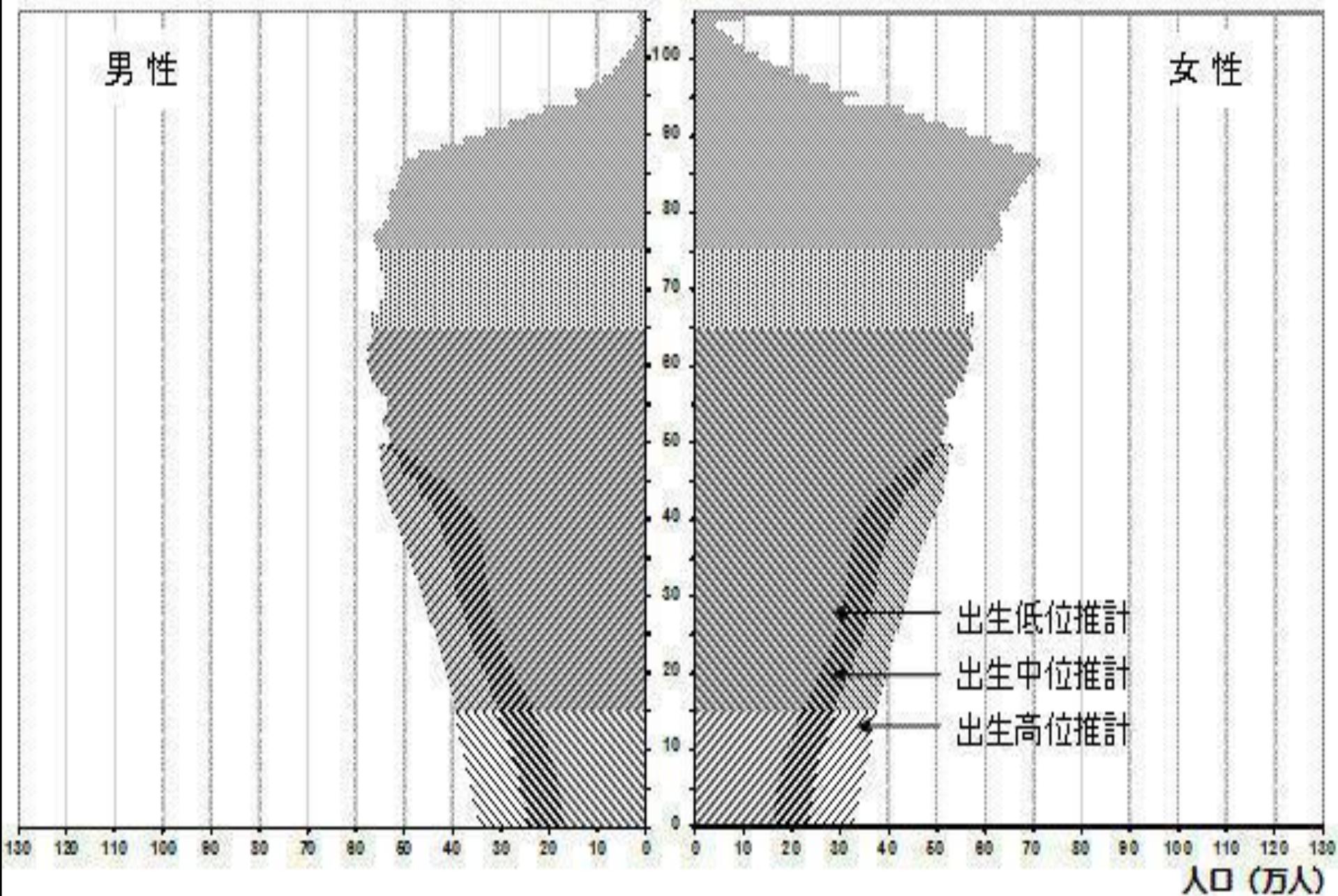


(3) 平成 72(2060)年

RBBTODAY.COM

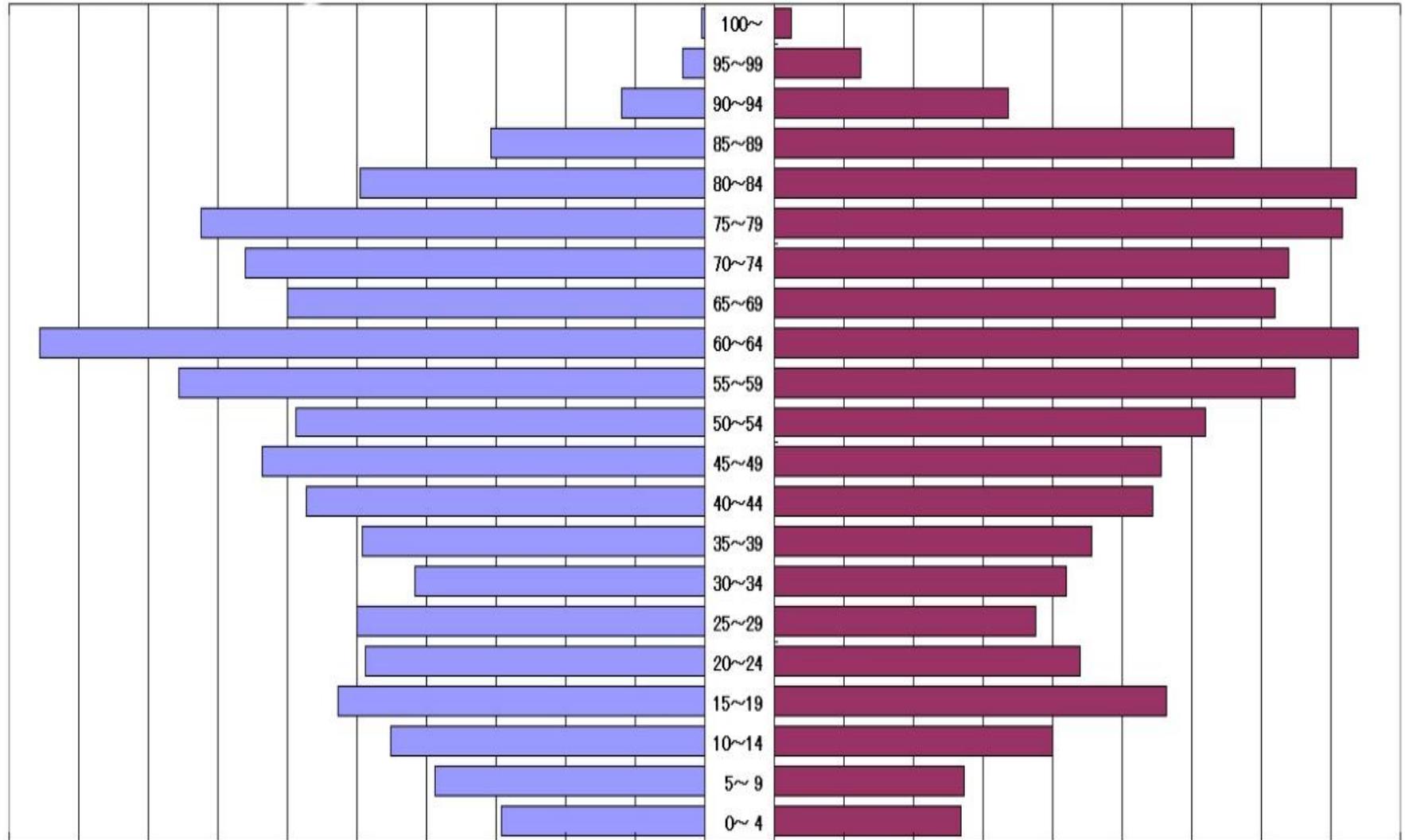
男性

女性



小海町

男 女



250 225 200 175 150 125 100 75 50 25 0 0 25 50 75 100 125 150 175 200 225

産経

市 60 世を
いのか
つ
ひでた
になる
ことが
い
（中江）

50年後の人口、関東分消える

厚労省推計

厚生労働省は30日の社会保障審議会人口部会で、日本の総人口が2060万（平成72）年に約3割減の8674万人まで減少するとした将来人口推計を発表した。10年に1億2806万人だった人口は48年に1億人の大台を割り込み、今後50年間で関東地方の1都6県の人口（約4200万人）に匹敵す

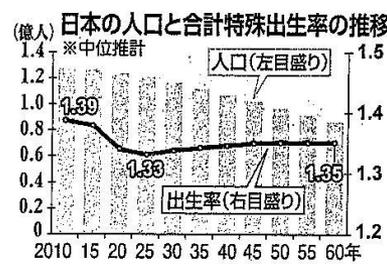
る41332万人が消失する計算だ。少子高齢化にも歯止めがかからず、65歳以上の高齢者が人口に占める割合も39・9%に達する。将来人口推計は06年12月以来約5年ぶりの見直し。人口推計の土台となる合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子供の平均数の推計値）は、中位推計（最も実現性が高いとみられる推計）で、24年に1・33まで落ち込んで底を打った後、

やや上昇し、60年には1・35となる。前回推計の出生率1・26からは上修正した形だが、合計特殊出生率が少回復しても、子供を産める年齢にする女性の数そのものが減少しているため生まれる子供の数は減り続け、17年後の41年以降は毎年100万人、10万人のペースで人口が減少。人数でみると、秋田県や和歌山県規模の道府県が毎年消滅する計算となる

3割減8674万人 65歳以上4割

北八ヶ岳と奥秩父山塊の間に広がる長野県小海町。白菜やレタスなど高原野菜の産地として知られるこの町は、約5200人の人口の5人に2人が65歳以上の高齢者、1年間に生まれる子供は20~30人という「50年後の日本の人口構成に近い町」（国立社会保障・人口問題研究所）だ。日本の「将来像」ともいえる町を、一足先に歩いた。（長谷川陽子）

「未来の縮図」長野・小海町



財政に余力なし

東西21キロ、南北16キロほどの小さな町の中心部には、JR小海線と国道が千曲川に沿って走っている。

「30年前は家族連れでにぎやかだった」（商店街関係者）という商店街も今は空き店舗が目立つ。しんと降り続く雪の中、日中も人通りはほとんどない。

中心部には、デイサービスが受けられる介護支援施設などが6施設。その一つ、社会福祉センター「やすらぎ園」には、1人暮らしの高齢者が格安の家賃で暮らせる集合住宅が整備されている。

街は高齢者仕様に



社会福祉センター「やすらぎ園」でカルタ取りを楽しむお年寄りと子供たち
―長野県小海町（やすらぎ園提供）

感染症と人の戦い 防

が悪い▽水分を与える重要性が理解され、下痢を防ぐか軽くすませる。ロタウィによって、多くの子供を救い、患者を少なくすることができ



認知症予防のため、定期的にお年寄りを集めて子供との交流会などを行うという。高齢化に伴い、町は高齢者が生活しやすいよう整備が進んでいる。

しかし、「財政には余力がない」（町職員）。町の平成23年度予算の歳出35億9500万円のうち、社会保障費にあたる民生費と衛生費は全体の3割を占める計約10億5400万円。

「確かにお年寄りには高年齢者で成り立

は要注意！ かつ
んな言葉で乳幼児
意を呼びかけてい

在宅医療連携拠点事業

・目的

地域住民の方々が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、
地域における包括的かつ継続的な在宅医療の体制を構築する。

⇒ 限られた地域資源の活用！！

事業経過

H25.10 長野県より、交付決定を受け事業開始
南佐久郡1町4村によりスタート

H26.4 佐久穂町の参加により南佐久郡全域での事業開始

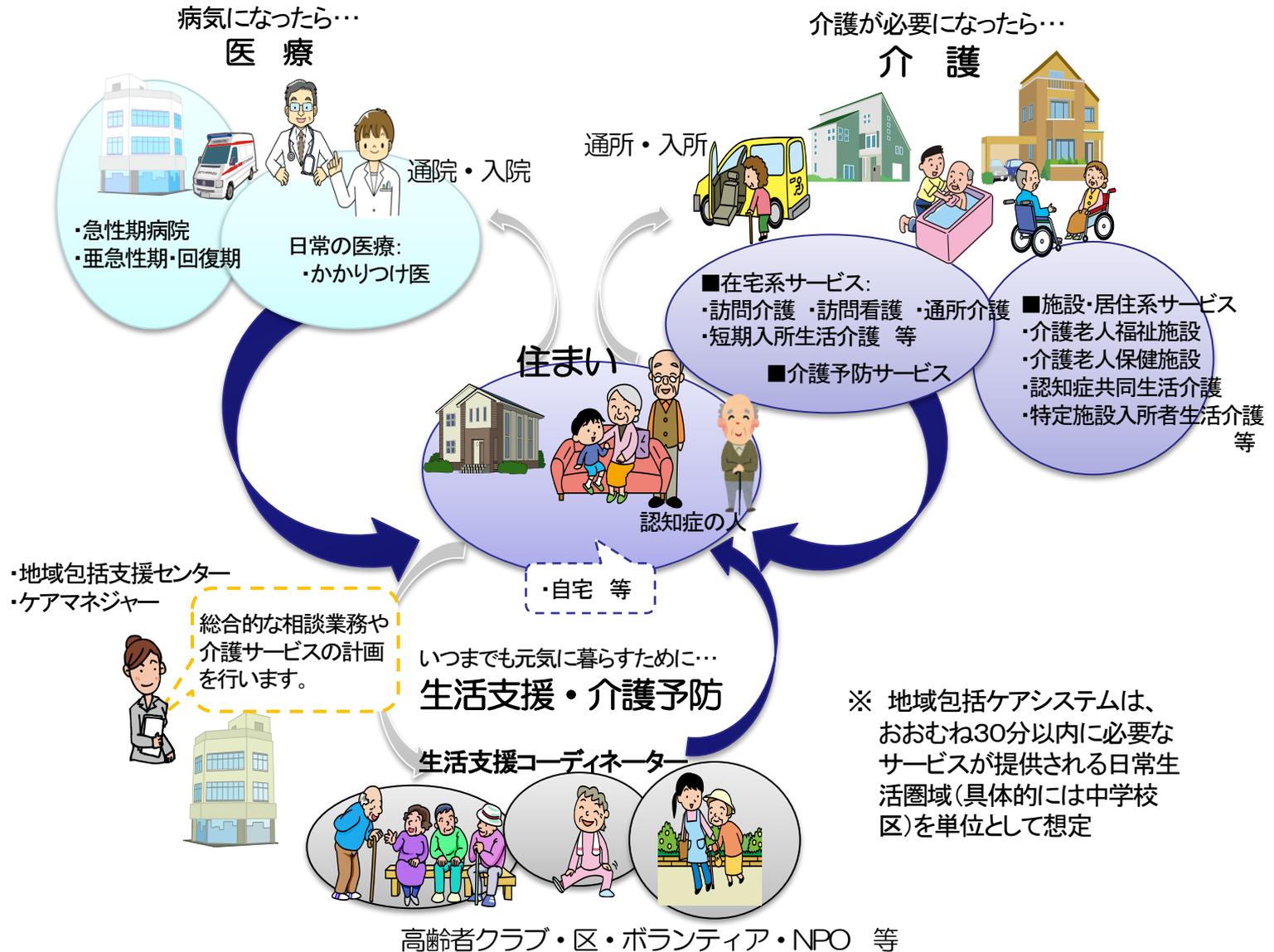
H26 多職種連携の為、検討の場を設置（年6回）
医療機関、訪問看護へ情報連携システムの導入

地域間での連携が取れている。

ただし、一方で現在の地域の実情に課題
もある。



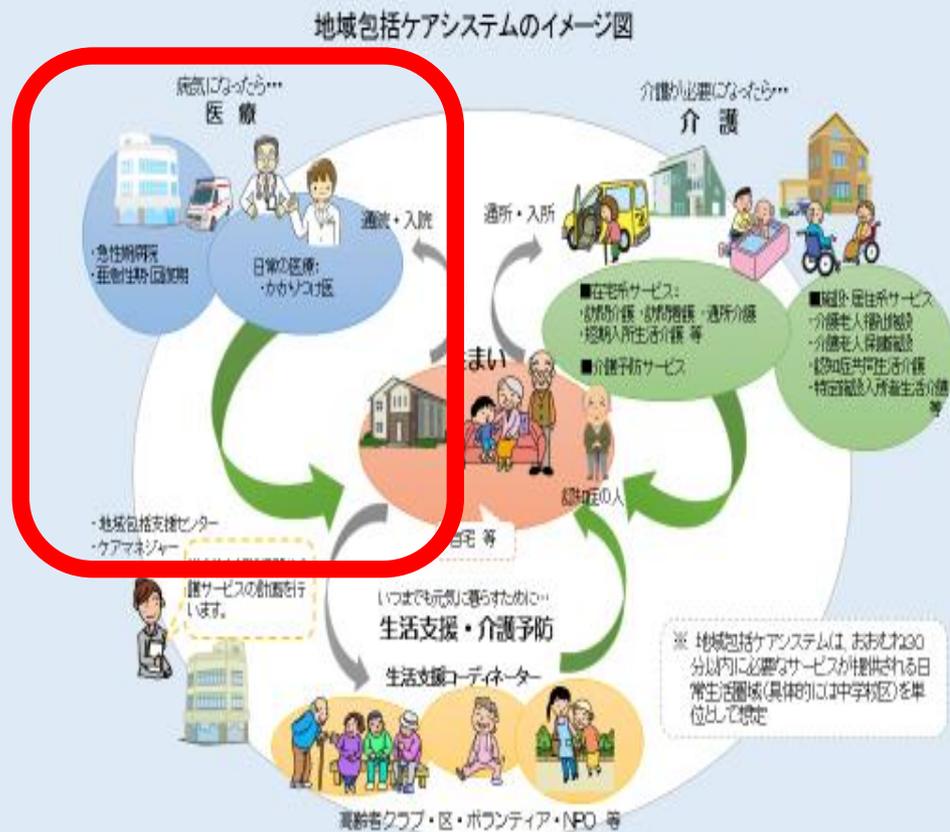
地域包括ケアシステムのイメージ図



第6期介護計画での位置付け

目指すべき方向性(地域包括ケアシステムの構築)

- ① 医療・介護の連携
- ② 認知症対策
- ③ 地域ケア会議
- ④ 新しい総合事業



医療・介護連携

介護保険の地域支援事業内での具体的取り組み
(8項目)

1. 資源の把握
2. 課題の抽出
3. 支援拠点の運営
4. 情報の共有支援
5. 関係者の研修
6. 24時間365日の在宅医療・介護サービスの提供体制の構築
7. 普及啓発
8. 二次医療圏内・関係市区町村の連携



医療・介護連携

介護保険の地域支援事業内での具体的取り組み
(8項目)

1. 資源の把握
2. 課題の抽出
3. 支援拠点の運営
4. 情報の共有支援
5. 関係者の研修
6. 24時間365日の在宅医療・介護サービスの提供体制の構築
7. 普及啓発
8. 二次医療圏内・関係市区町村の連携

⇒情報連携システム(コミュニケーションツール)で患者及び要介護者視点での連携を！！

目指すべき姿

- ① 切れ目のない在宅医療・介護サービス
- ② 広域、多職種レベルでの更なる情報共有

住み慣れた地域での暮らしを実現し、かつ充実したものとするためには？

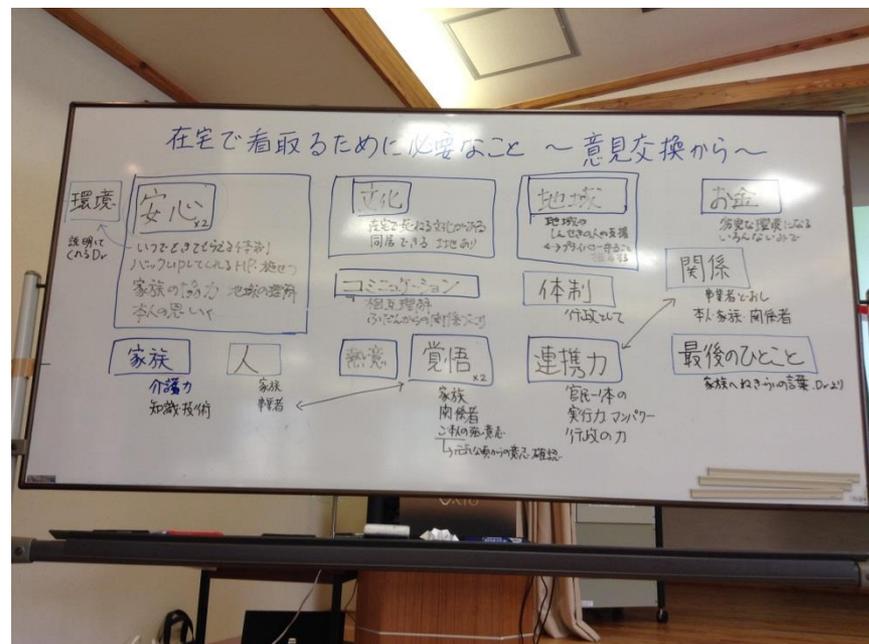
患者、要介護者視点での
必要なサービスを提供できる
地域全体での体制作りが必須！！



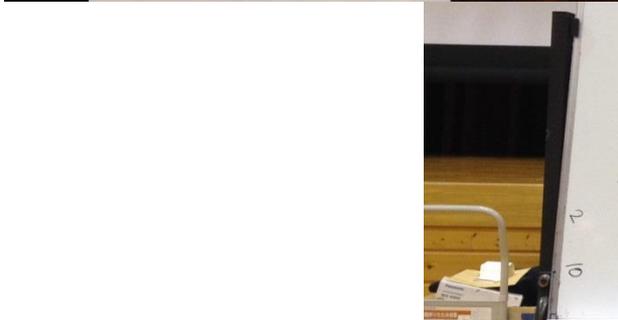
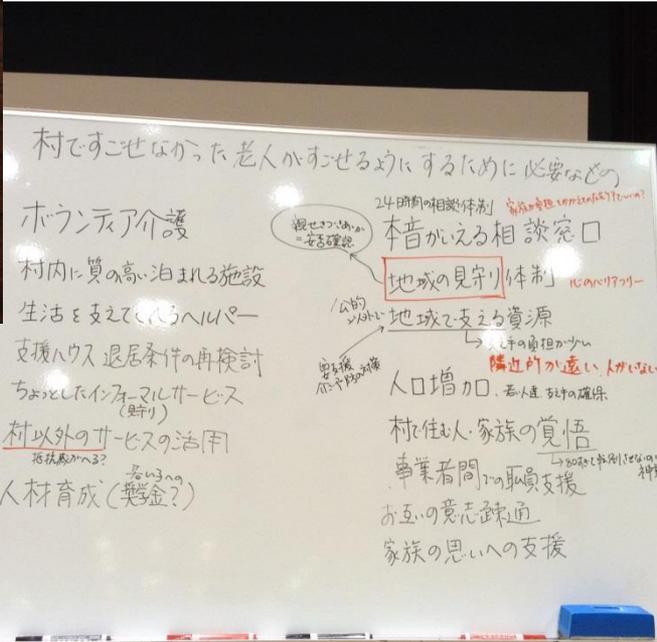
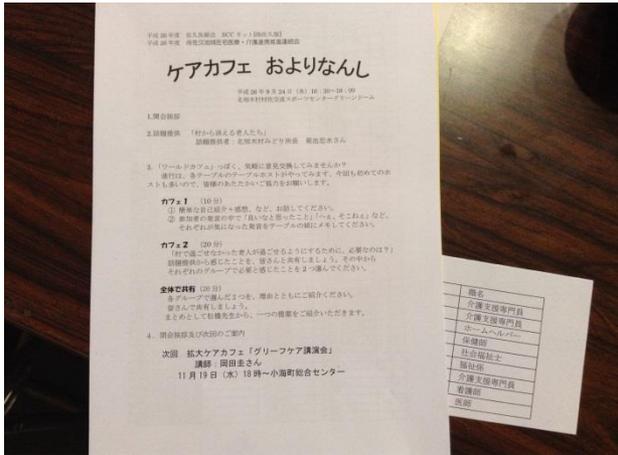
多職種連携の取り組み



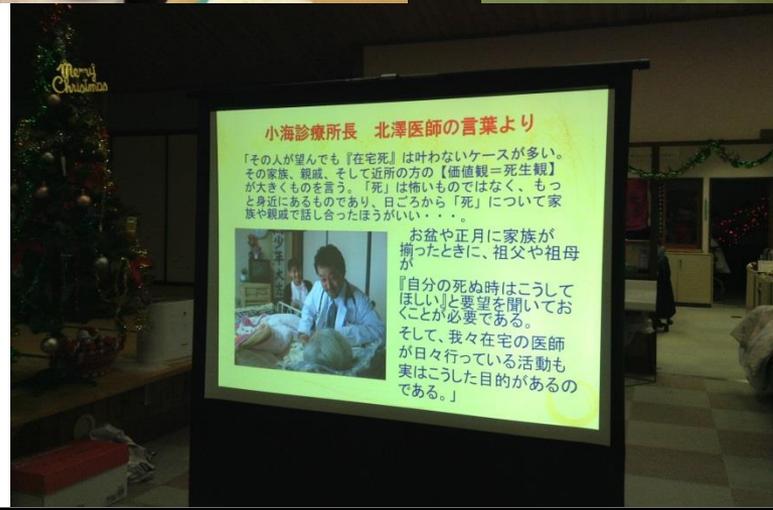
ケアカフェおよりなんし・川上



ケアカフェおよりなんし・北相木



在宅看取り学習会



健康福祉祭り・南牧村



南部地区在宅

第三回
故人を偲ぶ会

小海診療所・訪問看護ステーションこうみ・やちほ
小海町社会福祉協議会共催

会場





南部地区在宅
第三回 故人を偲ぶ会

南部地区
第三回
故人を



南部地区在宅

第三回
故人を偲ぶ会

小海診療所・訪問看護ステーション
小海町社会福祉協議会共催
やちは



地域医療研修報告会

佐久総合病院初期研修医 「地域医療研修で学んだこと」 を公表

- 南部5ヶ町村で8週間研修
- 今年度は報告会7回実施
- 研修場所の訪問・通所系事業所の
スタッフや行政職員・病院職員など
30名程度が毎回参加
- 地域の実情を交えた、意見交換

地域で働きたい医
師、
増えてほしい

地域で働くおもしろさを
医師に実感してほしい



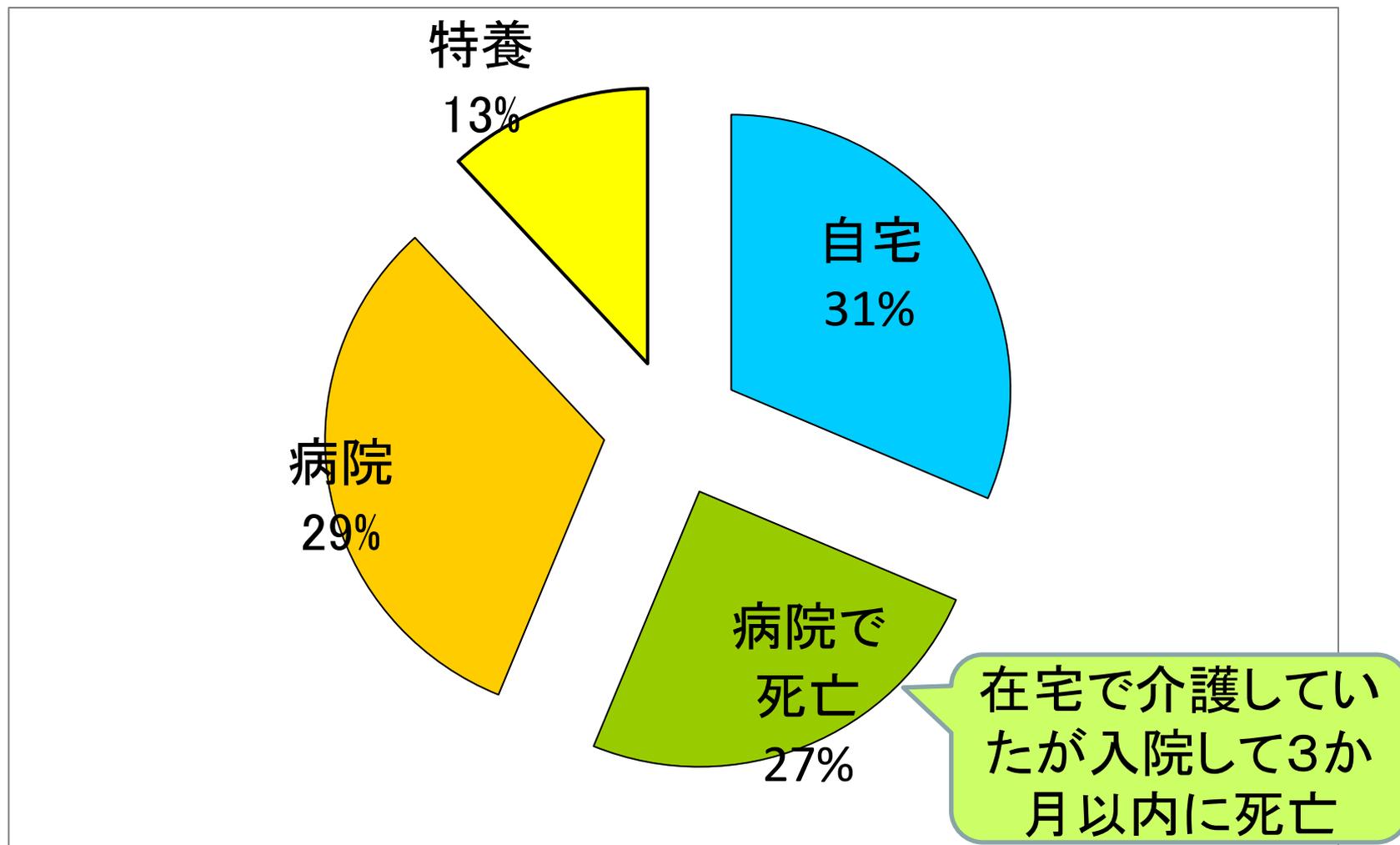
看取りの文化を築く・・・

- ・お亡くなり時に集まった親族、近隣住民に、医師より在宅で看取るまでの経緯、スタッフの関わり、介護者へのねぎらいの言葉を伝える



南部5か町村65歳以上の死亡場所

H25.4~H26.3 65歳以上死亡者224人 (全死亡者233人)



新しい連携情報システムの取り組み

- 医療介護の地域連携ネットワークシステムの導入(Net4U)



- 診療所間の在宅患者申し送りをテレビ会議で



ご静聴有り難うございました



第54回日本農村医学会学術総会in軽井沢(2005年10月20日)